

製品安全データシート

JH-A112

作成 : 2018/2/19
改訂 : 2022/8/31

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称

JH-A112
N-(2-aminoethyl)-3-aminopropyltrimethoxysilane
N-β(アミノエチル)γ-アミノプロピルトリメトキシシラン

会社名
住所

Hubei Jiangnan New Materials Co.,Ltd. 湖北江瀚新材料股
No.36,Qunli Road,Shashi Economic Technology Developing Zone,
Shashi District,Jingzhou City,Hubei,China 434005

担当部署
担当者(作成者)
電話番号
FAX番号
メールアドレス
緊急連絡先番号

+86-716-8377819
+86-716-8377812

販売代理店
住所
電話番号
FAX
メールアドレス
HP

サンケミカル株式会社
東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
03-3661-6681
03-3661-7055
yano@sun-chemical.co.jp
<http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意

シランカップリング剤

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類

物理化学的危険性:

健康に対する有害性:

皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分1
皮膚感作性	区分1

環境に対する有害性:

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

- GHSのラベル要素
- 絵表示又はシンボル



- 注意喚起語 危険

- 危険有害性情報

H315 皮膚刺激
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318 重篤な眼の損傷

R-phrased

R38 皮膚に刺激がある
R41 眼に深刻な損傷のリスク
R43 皮膚にアレルギーがでるおそれがある

- 注意書き

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。

P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P305+P351+ 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。

S26 眼に接触したら、直ぐに多量の水で洗い流すこと。
S39 眼と顔の保護具を着用すること。

【応急措置】

吸引した場合 新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸がない場合
人工呼吸を施す。

皮膚に付着した場合 多量の水と石けんで洗い流すこと。

眼に入った場合 多量の水で15分間洗い流し、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合 意識のない患者の口に何も与えないこと。
口をゆすぐこと。

【保管】

換気の良い涼しい場所で容器を密閉し、保管すること。
不活性ガスの元で保管すること。
湿気に影響しやすいので、注意すること。

【廃棄】

アフターバーナーとスクラバーを備えた化学用焼却炉で焼却する。
処分場所の法令を遵守すること。
廃棄物業者に連絡をとること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

別名

工業純品

N-(2-aminoethyl)-3-aminopropyltrimethoxysilane

N1-[3-(トリメトキシシリル)プロパー-1-イル]エタン-1, 2-ジアミン

N-β(アミノエチル)γ-アミノプロピルトリメトキシシラン

化学特性

CAS番号

1760-24-3

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

≥98%

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

化審法 2-2059

安衛法 12-660

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

その他含有物

名前	CAS	EC	化審法	濃度
メタノール	67-56-1	200-659-6	2-201	0.5%
ダイマー	N/A	N/A	N/A	1.5%

▲ 項目4 応急処置

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護 データ無し

医師に対する特別な注意事項 データ無し

毒劇物の場合、解毒剤

項目5 火災時の措置 職場のあんぜんサイトから引用

消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の措置に関する 特有の危険有害性	燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 爆発の可能性があるので、壁に隠れて消防を行うこと。 熱を持っている場合、荷物を移動させないこと。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋
安全グラス
保護具
自給式呼吸器の着用

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

裸火を近づけない事。腐食耐性の器具を使用する事。容器を密閉すること。
大量/密室で漏れた場合、避難方法を考慮すること。

汚染場所から離れる事。関係のない人を避難させること。換気をする事。
項目8を参照ください。

保護具を着用すること。蒸気、ミスト、ガスの吸引を避けること。
換気のよい状態を確実にすること。

環境に対する注意事項

下水、環境に排出しないこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物を適切な容器に入れる。漏出液を塞いで、漏れを止める。
土壌と水を汚さないようにする。
下水に流れないようにする。

非活性物質で吸収し、危険廃棄物として処理すること。
密閉した適切な容器で処理すること。

二次災害の防止策

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策
(局所排気、全体換気)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用する。
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

皮膚と眼の接触を避けること。
蒸気、ミストの吸引を避けること。
着火源から遠ざけること。
禁煙(着火源になる)
静電気の蓄積を避けること。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

容器は密閉すること。汚染された衣類は直ぐに脱ぐこと。
廃棄物を下水に流さないこと。

保管

安全な保管条件

換気の良い涼しい場所で容器を密閉し、保管すること。
不活性ガスの元で保管すること。
湿気に影響しやすいので、注意すること。

近づけてはいけないもの

可燃物、(強酸化剤)、金属、水/湿気

安全な保管保管包装材料

元の容器

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版) 未設定
ACGIH(2005年) 未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

アース線の設置を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行うこと。
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

保護具

呼吸用保護具

ガス蒸気の濃度が高い際、ガスマスクを着用する事。

手の保護具

(EU Directive 89/686/EEC)(EN374)の規格に合致したもの。

眼の保護具

顔を覆う保護具と安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

職場の曝露状況に対応した保護具

特別な注意事項

産業衛生を遵守し、安全に取り扱う。
 毎回食事の前、作業終了時に手を洗うこと。

項目9 物理的及び化学的性質	
物理的状态	液体
色	無色
臭い	データ無し
融点・凝固点	データ無し
沸点又は初留点及び沸騰範囲	261°C; 760mmHg
可燃性	
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	>70°C(密閉)
自然発火点	データ無し
分解温度	データ無し
pH	10
動粘性率	3.1mm ² /s(static 20°C)
溶解度	データ無し
n-オクタノール/水分分配係数(Log値)	データ無し
蒸気圧	<5mmHg(25°C)
密度及び/又は相対密度	1.020g/ml
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	データ無し
その他のデータ	
屈折率	1.445(25°C)

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	引火点以上の場合、可燃性と爆発性の危険がある。 物質は中性反応をする。
化学的安定性	通常は安定。
危険有害反応可能性	熱に触れると、酸とアルコールの蒸気に着火する。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけない事。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
混触危険物質	可燃物、酸化剤、強酸、金属、水、湿気、アルミニウム、鉄
危険有害な分解生成物 その他	一酸化炭素、一酸化窒素、酸化ケイ素

★ 項目11 有害情報

オリジナルSDSの記載	
急性毒性	LD50/経口/ラット/7669mg/kg
皮膚腐食性/皮膚刺激性	データ無し
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	ウサギの眼に重篤な刺激がある
呼吸器感作性又は皮膚感作性	アレルギー反応を引き起こすおそれがある
生殖細胞変異原性	データ無し
発がん性	IARCで、発がん評価されている物質を0.1%以上含有していない。
生殖毒性	データ無し
特定標的臓器毒性、単回曝露	データ無し
特定標的臓器毒性、反復曝露	データ無し

誤嚥有害性

データ無し

その他

吸い込むと有害。呼吸器に刺激。
皮膚から吸収される。皮膚刺激がある。

項目12 環境毒性情報

生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性 魚	LC50							
急性毒性 無脊椎動物 魚に対する	EC50							
慢性毒性								
長期毒性 無脊椎動物	NOEC		16mg/L		甲殻類			
長期毒性 藻、	NOEC EC50		32mg/L		藻			
水生微生物 に対する毒	IC50 IC50							

残留性・分解性

方法	値	期間	値の決定
OECD 301C 修正 MITIテスト (1)	92-96%	14日間	実験値
OECD 301A DOC die-away 法	95-97%	21日間	実験値

生態蓄積性

基準	方法	値	期間	被検体	値の決定
----	----	---	----	-----	------

土壤中の移動性

基準	方法	値	値の決定
----	----	---	------

オゾン層への有害性

他の有害影響

オリジナルの記載事項

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

項目14 輸送上の注意

国際規制
国連番号 非該当
品名(国連輸送名) 非該当

国連分類 非該当
(輸送における危険有害性クラス)

容器等級 非該当
海洋汚染物質 非該当
(該当・非該当)

MARPOL73/78附属書II及び
IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 該当

(該当・非該当)

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

国内規制がある場合の規制情報

その他
応急措置指針番号 非該当

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	非該当
安衛法	通知・表示対象物質 非該当
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	該当なし
消防法	消防法 第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)
化審法	既存化学物質 ベンジルアルコール 化審法官報整理番号 3-1011
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
バーゼル法	第2条特定有害廃棄物等(0.1%重量%以上含む物)
外為法	輸出令別表第2の35の2項(0.1%重量%以上含む廃棄物)
港則法	キャッチオール規制

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
職場のあんぜんサイト
2016年版 16716の化学商品

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものです。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くて良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)